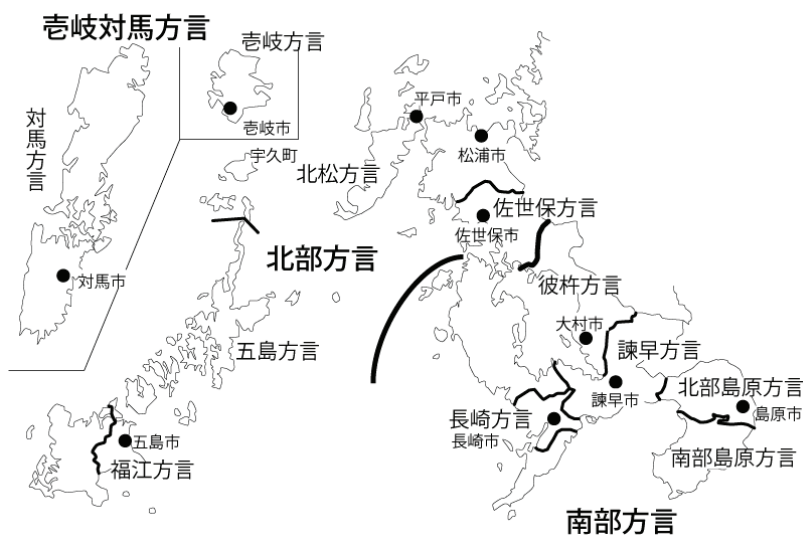


## 長崎県佐世保市宇久町方言



長崎県方言区画図

【長崎県の方言区画】長崎県の方言区画は、大きく「南部方言」、「北部方言」、「壱岐対馬方言」の3区画に分けられる。

この3区画の方言は、さらに細かく分けられる。原田（1983a）の分類を参考に、その細かい区画を示す。「南部方言」は、長崎市の中でも長崎港周辺旧市街地の「長崎方言」、大村市や東彼杵郡、西彼杵郡を含む「彼杵方言」、諫早市、北高来郡の「諫早方言」、島原半島を南北に分けて「北部島原方言」と「南部島原方言」があり、5つの区画に分けられる。

「北部方言」は、平戸市や松浦市、北松浦郡を含む「北松方言」、佐世保市の「佐世保方言」、五島列島の「五島方言」、五島列島の中でも五島市福江の「福江方言」があり、4つの区画に分けられる。

「壱岐対馬方言」は、「壱岐方言」と「対馬方言」の2つの区画に分けられる。

長崎県は近世期、大村藩、平戸藩、島原藩、佐賀藩、五島藩、対馬藩と多くの藩があった。このような細かい区画は、近世期の藩領による影響もあると考えられる。

愛宕（1983）は、この「南部方言」と「北部方言」の語彙的な違いを述べている。例えば、「かまきり」

は、南部で「オガミダロー」、北部で「チョーランミャー」ということを述べている。南部でも違いがあり、「かわはぎ」を、彼杵で「ポップ」、島原で「コ（一）ムキ」といい、北部では「キューロッパ」ということを述べている。【佐世保市宇久町方言について】佐世保市宇久町は、長崎県の五島列島の最北端に位置する島であり、宇久島とその属島で

ある寺島の二島からなっている。近隣の小値賀島と同様、北松浦郡に属していたが、2006（平成18）年3月に佐世保市に編入された。宇久町方言は、旧郡域からは北松方言に属することになるが、原田（1983b）で、語彙が五島方言に近いことが述べられている。また、九州西部方言のテ形現象を記述した有元（2007）で、宇久町方言も五島方言と同様に、「書いてきた」が「カッキタ」になるようなテ形現象がみられることが述べられている。

宇久町方言は、連母音aiに対応して「キヤー（貝）」、「キヤータ・カータ（書いた）」など [jja:] がみられる。oiに対応して「オトテ（一昨日）」、「ケー（来い）」など [e:] がみられる。uiは「シーカ（酸い）」、「シーチャー（好いている）」など [i:] がみられる。その他、auに対応して「カイゴラ（梶が浦）」（月川（1997: 29））、ouに対応して「オトート（弟）」など [o:] がみられる。

宇久町方言では、si、suにあたるモーラが語中や語末にあるとき、そのモーラが無声硬口蓋摩擦音の [ç] になる現象がみられる。[ur:ç]（牛）、[mu:çko]（息子）などが挙げられる。また、「セン（しない）」が [sen] ～ [een] と発話されたり、「ゼン（銭）」が [zen] ～ [zen] と発話されたりするなど、「セ」と「ゼ」は、口蓋化することがある。

述語になる場合、最終音節末の母音 u が脱落することが多い。脱落した際は、その子音の音声的特徴にしたがって、特殊モーラで言い切る。k、t、b、w は促音（調音点は後続音に依存）、g、m、n は撥音（同前）、s は無声硬口蓋摩擦音[ç]、r は前の母音が長母音となる。名詞でも、最終音節末が狭母音の i や u であるとき、同様の脱落が起こる。k、t、b の例は「ヒャッ(百)」、「ヒトッ(ひとつ)」、「クッ(首)」など、g、m、n の例は「ミン(右)」、「カン(紙)」、「イン(犬)」など、s の例は「ハヒ(橋)」、「ヒラヒ(ヒラス)」など、r の例は「ヤー(槍)」、「ヨー

(夜)」などが挙げられる。

また、この方言では、長母音の 1 シラブルが短く発話されることがある。

【表記について】 前述の無声硬口蓋摩擦音[ç]は「ヒ」とする。[sen]と[een]は「セ」、[zen]や[3en]は「ゼ」とする。

【調査概要】 本稿の記述は、佐世保市宇久町で生育した高年層話者（1928-30（昭和 3～5）年生まれ）を対象とする臨地面接調査、および 2008 年、2013 年に収録した談話資料に基づく。用例にも、臨地調査で得たものと、談話資料で得たものを含む。

## 長崎県佐世保市宇久町方言の活用表

### 《動詞》

		多段型 書く	一段型 見る	二段型 開ける	来る	する
終 止 類	断定非過去	カク	ミル	アクル	クル	スル
	断定過去	キヤータ	ミタ	アケタ	キタ	シタ
	命令	カケ	ミレ ミロ	アケレ	ケー	セレ
	禁止	カッナ	ミンナ	アクンナ	クンナ	スンナ
	意志	カコー	ミロー	アクー	クー	スー
	推量	カコー カッジャロー	ミロー ミージャロー	アクー アクージャロー	クー クージャロー	スー スージャロー
接 続 類	連体非過去	カク	ミル	アクル	クル	スル
	連体過去	キヤータ	ミタ	アケタ	キタ	シタ
	中止	キヤーテ	ミテ	アケテ	キテ	シテ
	仮定	カケバ キヤータラ	ミレバ ミタラ	アケレバ アケタラ	ケーバ キタラ	セレバ シタラ
派 生 類	否定	カカン	ミラン	アケン	コン	セン
	丁寧	△カキマス	△ミマス	△アケマス	△キマス	△シマス
	使役	カカスル	ミラスル	アケサスル	コラスル	サスル
	受身	カカルル	ミラルル	アケラルル	コラルル	サルル
	可能	カカユル	ミラユル	アケヤユル	キヤユル	サユル
		カカルル	ミラルル	アケラルル	コラルル	サルル
		カキキル	ミキル	アケキル	キキル	シキル
	尊敬	△カカレル	△ミラレル	△アケラレル	△コラレル	△サレル
	継続	カッゴル	ミロル	アケヨル	キーヨル	シヨル
カッポル キヤーチョル		ミチョル	アケチョル	キチョル	シチョル	
希望	カコゴチャル	ミロゴチャル	アクゴチャル	クーゴチャル	スーゴチャル	
のだ	カット	ミット	アクット	クート	スット	

多段型動詞の基幹音便形

語幹末子音	語例	活用形例(過去形)	作り方
k	書く kak・u	キヤー-タ	kをiにする。さらに連母音の融合が起こる <sup>註</sup> 。「行く」ik・uはkをQ(促音)にし「イッ-タ」。
g	泳ぐ ojog・u	オエ-ダ	gをiにする。さらに連母音の融合が起こる <sup>註</sup> 。-タが-ダになる。
s	出す das・u	ダヒ-タ	sを無声硬口蓋摩擦音 [ç] にする。
t/c	立つ tac・u	タッ-タ	t/cをQ(促音)にする。
n	死ぬ sin・u	シン-ダ	nをN(撥音)にする。-タが-ダになる。
b	遊ぶ asob・u	アソン-ダ アソー-ダ	bをN(撥音)にする。-タが-ダになる。 bをuにする。さらに連母音の融合が起こる <sup>註</sup> 。-タが-ダになる。
m	飲む nom・u	ノン-ダ ノー-ダ	mをN(撥音)にする。-タが-ダになる。 mをuにする。さらに連母音の融合が起こる <sup>註</sup> 。-タが-ダになる。
r	切る kir・u	キッ-タ	rをQ(促音)にする。
w/ø	買う ka(w)・u	コー-タ	wをø(子音なし)にしwの前の母音がaの場合はoに変え、oR(長音)にする。

(注) 本文【佐世保市宇久町方言について】を参照。

《形容詞・形容名詞述語・名詞述語》

		赤い	静か(だ)	学生(だ)
終 止 類	断定非過去	アッカ	シズカカ	ガクセー
	断定過去	アッカッタ	シズカカッタ シズカジャッタ	ガクセージャッタ
	推量	アッカロー	シズカカロー シズカジャロー	ガクセージャロー
接 続 類	連体非過去	アッカ	シズカカ シズカナ	《ガクセーノ》
	連体過去	アッカッタ	シズカカッタ シズカジャッタ	ガクセージャッタ
	中止	アコシテ	シズカデ	ガクセーデ
	仮定	アカカレバ	シズカカレバ	ガクセーナラ
派 生 類	否定	アコナカ	シズカジャナカ	ガクセージャナカ
	なる	アコナル	シズカニナル	ガクセーニナル
	丁寧	アッカデス	シズカカデス	ガクセーデス
	のだ	アッカト	シズカカト	(該当形 欠)

1. 動詞の活用の特徴

(1) 活用型と語類の対応

規則的な活用型に、基幹多段型(以下、多段型)と基幹一段型(以下、一段型)、基幹二段型(以下、二段型)がある。おおよそ、多段型にはa類(「書く」、「居る」、「死ぬ」類)動詞が所属し、一段型にはb類動詞の「見る」、「起きる」類が所属し、二段型にはb類動詞の「開ける」類が所属する。

多段型の基幹はア・イ・ウ・エ・オ段の5形と音

便形がある。「書く」を例にすると、カカ-ン(kak・a-N)、カキ-キル(kak・i-kiru)、カク(kak・u)、カケ(kak・e)、カコー(kak・oR)、キヤー-タ(kjaR-ta)、カッ-ゴル(kaQ-goru)となる。語幹末子音には、k(カ行)、g(ガ行)、s(サ行)、t(タ行)、n(ナ行)、b(バ行)、m(マ行)、r(ラ行)、w(ワ行)がある。

一段型の基幹は、イ段である。「見る」を例にすると、ミ-タ(mi-ta)、ミ-テ(mi-te)となる。この一段型の動詞は、「r語幹化」がみられる。多段型のr語

幹動詞に対応した形は、否定形ミ-ラン mi-raN (r 語幹であればミラ-ン mir・a-N)、意志形ミ-ロー mi-roR (ミロー mir・oR)、使役形ミ-ラスル mi-rasuru (ミラ-スル mir・a-suru)、否定仮定形のミ-ラネバ mi-raneba (ミラネバ mir・a-neba) など、多くの活用形にみられる。「起きる」には、過去形オキタ (oki-ta) のほかにオキッタ (oki-Qta) も用いられている。これも r 語幹動詞の音便形に対応する形 (okiQ-ta) である。

二段型の基幹はウ・エ段の 2 形がある。「開ける」を例にすると、アクル (ak・u-ru)、アケ-タ (ak・e-ta) となる。

不規則な活用をする動詞に、「クル」(来る)と「スル」(する)がある。「クル」は、キ-タ (k・i-ta)、クル (k・u-ru)、コン (k・o-N) のように、「キ」「ク」「コ」の基幹が 3 段にわたり、また、ケー (keR)、ケー-バ (keR-ba) のような形がある。「スル」は、サ-ユル (s・a-juru)、シ-タ (s・i-ta)、スル (s・u-ru)、セレ (s・e-re) のように、基幹が 4 段にわたる。

## (2)各活用形の特徴

### 〈断定非過去形〉

多段型動詞は、基幹ウ段形となる。一段型動詞は「基幹(=語幹)+ル」となる。二段型動詞は「基幹ウ段形+ル」となる。「来る」、「する」は「基幹ウ段形+ル」で「クル」、「スル」となる。ただし、宇久町方言では、前述の「佐世保市宇久町方言について」でも述べた通り、最終音節末が脱落することが多い。また、断定形に接続する終助詞に、「ヨ」、「ゾ」、「ネ」などがある。断定過去形も同様である。これらの終助詞が断定非過去形に接続する場合にも、語形変化が起こる。なお、終助詞「ヨ」に長母音が接続したとき、その長母音が「イ」になることがある。

- ・タローガ ナカニ オイヨ。(太郎が中にいるよ。)
- ・ミヤーヒ ロクジ オキー。(毎日 6 時に起きる。)
- ・マドバ アクー。(窓を開ける。)
- ・イマカー シゴツバ スッ。(今から仕事をす。)

### 〈断定過去形〉

多段型動詞は音便形に、一段型動詞は基幹(=語

幹)に、二段型動詞は基幹エ段形に、「来る」、「する」はそれぞれの基幹イ段形「キ」、「シ」に「タ」を後接する。

- ・テガンバ キャータ。(手紙を書いた。)
- ・ニドト ハナサンゴテ ツコダ。(二度と離さないように掴んだ。)
- ・キノー ロクジニ オキタ。(昨日は 6 時に起きた。)
- ・ホカノ ヒトガ マタ キタヨ。(他の人がまた来たよ。)
- ・キータゴチャー カンジ シタゾ。(聞いたような感じがしたぞ。)

### 〈命令形〉

多段型動詞は基幹エ段形になる。一段型動詞は「基幹(=語幹)+レ」になる。二段型動詞は「基幹エ段形+レ」になる。「来る」は「ケー」、「する」は「セレ」が用いられる。この形に付く終助詞に「ヨ」などがある。

- ・ウナ コケ オレヨ。(お前はここにいろ。)
- ・ケーヨ。(来いよ。)
- ・ハヨ セレ。(早くしろ。)

### 〈禁止形〉

多段型動詞は基幹ウ段形に、一段型動詞は「基幹(=語幹)+ル」に、二段型動詞、「来る」、「する」はそれぞれ「基幹ウ段形+ル」に「ナ」が後接する。

多段型動詞は、最終音節末が脱落した形式で、「ナ」に接続する。各語幹末子音での例を挙げる。カク (kak・u) はカッ-ナ (kaQ-na)、ヌグ (nug・u) はヌン-ナ (nuN-na)、ハナス (hanas・u) はハナヒ-ナ (hanah-na)、マツ (mac・u) はマッ-ナ (maQ-na)、シヌ (sin・u) はシン-ナ (siN-na)、オラブ (orab・u) はオラッ-ナ (oraQ-na)、ノム (nom・u) はノン-ナ (noN-na)、オドル (odor・u) はオドン-ナ (odoN-na)、ワラウ (waraw・u) はワラッ-ナ (waraQ-na) となる。「アユブ」(歩く)は b 語幹だが、禁止形はアユンナ (ajuN-na) になり、「クウ」(食う)は w 語幹だが、禁止形はクーナ (kuR-na) になるなど、例外の動詞もある。

一段型動詞、二段型動詞、「来る」、「する」は、接続する「ル」が撥音になる。

禁止形にも終助詞「ヨ」が接続する。

- ・ナンニモナランモンバ ミンナヨ。(何にもな

らないものを見るなよ。)

- ・アヒタワ クナヨネ。(明日は来るなよ。)
- ・パーカナコッパ スナヨ。(馬鹿なことをするな。)

#### 〈意志形〉

多段型動詞は「カコー」「オロー」など、オ段長音形になる。一段型動詞はr語幹化した「ミロー」「オキロー」が用いられる。「佐世保市宇久町方言について」で述べたように、末尾の長母音は短母音がすることも多い。

- ・イッシュヨニ オロデ。(一緒にいよう。)
- ・アシタワ ロクジニ オキロー。(明日は6時に起きよう。)

二段型動詞、「来る」、「する」は、「アクー」、「クー」、「スー」のようにウ段長音になる(前述のように短音化することも多いが、意志形が1音節の場合は短音化しにくい)。「来る」は、歴史的には基幹オ段形に「ウ」が付いて縮約した形式であると捉えられる。二段型動詞は基幹エ段形に「ウ」が付いて縮約した「アキュー」のような形式が、直音化したと捉えられる。同様に、「する」は基幹イ段形に「ウ」が付いて縮約した「シュー」のような形式が、直音化したと捉えられる。

意志形に接続する終助詞に「タイ」、「カネ」、「デ」などがある。「タイ」は意志形に接続するとき、「ダイ」と濁音化する。

- ・マタ コケ クーダイ。(またここに来よう。)
- ・シゴッパ スーカネ。(仕事をしようかな。)

#### 〈推量形〉

推量形は2つあり、ひとつは意志形と同じ形である。

- ・タローガ カコダイ。(太郎が書くだろう。)
- ・ハナコモ ミロダイ。(花子も見ようだろう。)
- ・タローガ ヌッカレバ アクダイ。(太郎が、暑ければ開けるだろう。)

もうひとつは、「カッジャロー」など「断定非過去形+ジャロー」である(この場合も末尾は短音化することが多い)。断定非過去形は、最終音節末が脱落した形式で接続することが多い。多段型動詞の「躍る」は、オドージャロー(odoR=zjaroR)になる。一段型動詞はミージャロー(miR=zjaroR)、オキージャロー(okiR=zjaroR)のようになる。

- ・マダ オージャロ。(まだいるだろう。)
- ・クージャロダイ。(来るだろう。)
- ・イマカー シゴッパ スージャロダイ。(今から仕事をするだろう。)

この「ジャロー」は、断定過去形、否定形などの活用形にも接続する。

- ・クスリニ ナランジャロ。(薬にならないだろう。)
- ・オドリモ オボエナジャロ。(躍りも覚えないだろう。)

#### 〈連体非過去形〉

連体非過去形は断定非過去形と同形で、「カク」、「ミル」、「アクル」、「クル」、「スル」などになる。

- ・フデデ ジーバ カッ モンモ オロー。(筆で字を書く者もいるだろう。)
- ・ハナコガ クー ヒバ オシエンネ。(花子が来る日を教えないうか。)

#### 〈連体過去形〉

連体過去形は断定過去形と同形で、「タ」を後接する。

- ・ハヨ オキタ モンガ アサメヒノ ヨーイバ シタ。(早く起きた者が朝食の用意をした。)

#### 〈中止形〉

多段型動詞は基幹音便形に、二段型動詞は基幹エ段形に、「来る」、「する」は基幹イ段形「キ」、「シ」に「テ」を後接する。

- ・キンギョガ シンデ カナヒカッタ。(金魚が死んで悲しかった。)
- ・ハナコガ ハヨ キテ ソン ツギ タローガ キタッヨ。(花子が早く来て、その次、太郎が来たんだよ。)

一段型動詞は、「ミル」はミテ(mi-te)になり、「オキル」はオキッテ(oki-Qte)になる。基幹(=語幹)が接続する動詞と、r語幹化した形(r語幹の音便形に対応する形)が接続する動詞がみられる。

#### 〈仮定形〉

仮定形は2つある。ひとつは、多段型動詞の基幹エ段に、一段型動詞の「基幹(=語幹)+レ」に、二段型動詞と「する」の「基幹エ段形+レ」に「バ」を後接する形式である。「来る」は「クーバ」が用いられる。

- ・イマカー カケバ マニアオダイ。(今から書けば間に合うだろう。)
- ・コン バングミバ ミレバ オモッタ コッモ カワーカモワカラン。(この番組を見れば、思ったことも変わるかもしれない。)
- ・ハナコガ ケーバ ミンナ ヨロコッジャロー。(花子が来れば、みんな喜ぶだろう。)

もうひとつは、多段型動詞の基幹音便形に、二段型動詞の基幹エ段形に、「来る」と「する」の基幹イ段形「キ」、「シ」に「タラ」を後接する形式である。

- ・モー ヒコーキナンカ ノッタラ バカンゴチャッタネー。(もう飛行機になんか乗ったら馬鹿みたい(な速さ)だった。)
- ・コップバ オトヒタラ アトカタモ ノコランゴテ コナゴナニ クダケタ。(コップを落としたら、跡形も残らないように粉々に砕けた。)

一段型動詞は、「ミル」はミタラ (mi-tara) になり、「オキル」はオキッタラ (oki-Qtara) になる。基幹(=語幹)が接続する動詞と、r 語幹化した形 (r 語幹動詞の音便形に対応する形) が接続する動詞がみられる。

#### 〈否定形〉

多段型動詞は基幹ア段形に、二段型動詞と「する」は基幹エ段形に、「来る」は基幹オ段形に「ン」を後接する。一段型動詞はr 語幹化した「ミラン」「オキラン」が用いられる。否定形の活用を、「書く」で代表させて下に示す。

断定非過去・連体非過去形 カカン

断定過去・連体過去形 カカンジャッタ

推量形 カカンジャロー

中止形 カカンジ

仮定形 カカネバ

- ・ハナコワ マダ オキラン。(花子はまだ起きない。)
- ・ノモゴチャッタバッテリー ノマンジャッタ。(飲みたかったけれど、飲まなかった。)
- ・テレビモ ミランジ シゴッショー。(テレビも見ないで仕事をしている。)
- ・ソトバ ミラネバ アメン フーロートモシラント。(外を見なければ、雨が降っていると知らないのだ。)

「ネバ」は、「動詞語幹+ネバ」ではなく、「否定形+ネバ」の形式もみられる。

- ・テバ ヒカレンネバ アユバエン ヒト バッカ。(手を引かれなければ、歩けない人ばかり。)
- ・アノ マンマ キノ ツーチョランネバ ワタシ コノ ヨニ オラントヨ。(あのまま気がついていなければ、私はこの世にいないのよ。)

#### 〈丁寧形〉

伝統的な宇久町方言で、丁寧形はみられない。島外の人などに対して、丁寧さを表す必要があるときには、共通語の「マス」が用いられる。

多段型動詞と「来る」、「する」は基幹イ段形に、一段型動詞は基幹(=語幹)に、二段型動詞は基幹エ段形に「マス」を後接する。

- ・イマカー シゴトワ シマス。(今から仕事をします。)

#### 〈使役形〉

多段型動詞と「する」は基幹ア段形に、「スル」を後接する。一段型動詞はr 語幹化した「ミラスル」、「オキラスル」が用いられる。二段型動詞は基幹エ段形に、「来る」は基幹オ段形に「サスル」を後接する。「スル」と「サスル」は、二段型動詞に準じた活用をする。

- ・ハナコニ ヒトーデ オキラスー。(花子に一人で起きさせる。)
- ・オレモ ケラセレヨ。(俺も蹴らせろ。)
- ・オーバ オマエヨラ テマエ サセックレレト。(俺をお前より手前にさせてくれよ。)
- ・ノマセンジャッタ。(飲まなかった。)

#### 〈受身形〉

多段型動詞と「する」は基幹ア段形に「ルル」を後接する。一段型動詞は基幹(=語幹)に、二段型動詞は基幹エ段形に、「来る」は基幹オ段形に「ラルル」を後接する。「ルル」と「ラルル」は、二段型に準じた活用をする。

- ・ケーコ サセラレヨートヨ。(稽古させられているのよ。)
- ・タローガ ジローカー タタカレタ。(太郎が次郎に叩かれた。)

#### 〈可能形〉

可能形は3つある。ひとつは、多段型動詞と「する」の基幹ア段形に「ユル」を後接する形式である。一段型動詞はr語幹化した「ミラユル」、「オキラユル」が用いられる。二段型動詞は基幹エ段形に、「来る」は基幹イ段形に「ヤユル」を後接する。「ユル」、「ヤユル」は二段型動詞に準じた活用をする。

- ・イッモ ケーコ シチョーテン サーユルダ  
イ。(いつも稽古をしているからできるよ。)
- ・シマニ キヤエン。(島に来ることができない。)

もうひとつは、多段型動詞と「する」の基幹ア段形に「ルル」を後接する形式である。一段型動詞はr語幹化した「ミラルル」、「オキラルル」が用いられる。二段型動詞は基幹エ段形に、「来る」は基幹オ段形に「ラルル」を後接する。「ルル」、「ラルル」は二段型動詞に準じた活用をする。

- ・フネノ デンテン ノラレン。(船が出ないから乗ることができない。)
- ・キカイノ ヨーナッタテン キョーワ シゴ  
ツノ サールイヨ。(機械が直ったから今日は仕事ができるよ。)

最後に、多段型動詞と「来る」、「する」の基幹イ段形に、一段型動詞の基幹(=語幹)に、二段型動詞の基幹エ段形に「キル」を後接する形式である。

- ・ビンブージャケン ナンモ カイキラン。(貧乏だから何も買うことができない。)
- ・イッモ ケーコ シチョーケン シーキルダ  
イ。(いつも稽古をしているからできるよ。)

これらの可能形は、能力可能には「ユル・ヤユル」と「キル」、状況可能には「ルル・ラルル」が用いられる。能力可能の2つの形式のうち、「ユル・ヤユル」が伝統的な宇久町方言と考えられ、「キル」は新しい形式である。

#### 〈尊敬形〉

伝統的な宇久町方言で、尊敬形はみられない。対外的な場面で、尊敬を表す必要があるときは共通語の「レル・ラルル」を用いる。

多段型動詞と「する」の基幹ア段形には「レル」を後接する。一段型動詞は基幹(=語幹)に、二段型動詞は基幹エ段形に、「来る」は基幹オ段形に、「ラルル」を後接する。

「レル」と「ラルル」は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・コラレタ。(いらっしゃった。)

#### 〈継続形〉

継続形は、動作や変化の進行を表す形式と、結果継続を表す形式の2つがある。

動作や変化の進行を表す形式は、多段型動詞の基幹音便形に、「オル」を後接する形式である。この多段型動詞の基幹音便形は、過去形での基幹音便形とは異なるため、以下に語幹末子音ごとの音便形の例を示す。カク (kak・u) はカッ-オル (kaQ-oru)、ヌグ (nug・u) はヌン-オル (nuN-oru)、ハナス (hanas・u) はハナヒ-オル (hanah-oru)、マツ (mac・u) はマッ-オル (maQ-oru)、シヌ (sin・u) はシン-オル (siN-oru)、アユブ (ajub・u) はアユン-オル (ajuN-oru)、ノム (nom・u) はノン-オル (noN-oru)、オドル (odor・u) はオドー-オル (odoR-oru) となる。w語幹は、ワラウ (waraw・u) はワラッ-オル (waraQ-oru)、クウ (kuw・u) はクー-オル (kuR-oru)、ウタウ (utaw・u) はウトッ-オル (utoQ-oru) などがみられる。一段型動詞はr語幹化した「ミロル」「オキロル」が用いられる。二段型動詞の基幹エ段形に、「来る」と「する」の基幹イ段形には、「ヨル」を後接する。「オル」、「ヨル」は多段型動詞に準じた活用をする。

この「オル」は、多段型動詞の音便形に後接したとき、語幹末子音と融合することで語形変化し、「ゴル」や「ボル」などの形式になることが多い。

- ・ズーット クーオートタイ。(ずっと食べているんだよ。)
- ・センセーモ ミロッタバッテ。(先生も見ていたけれども。)
- ・ナーゴニ ハナヒゴ。(長く話している。)
- ・ドッチガ カッゴーカヨ。(どっちが勝っているのか。)
- ・モー シンゴーヨ。(もう死につつあるよ。)
- ・カッポーゴタッタ。(書いているようだった。)
- ・ビールバ ミンノゴテ ノンポー。(ビールを水のように飲んでいる。)

結果継続を表す形式は、多段型動詞の基幹音便形に、二段型動詞の基幹エ段形に、「来る」と「する」の基幹イ段形に「チョル」を後接する形式である。多段型動詞の基幹音便形は、過去形の基幹音便形と同じである。一段型動詞は、「ミル」はミチョル (mi-cjoru) になり、「オキル」はオキツョル

(oki-Qcjoru)になる。基幹(=語幹)が接続する動詞と、r 語幹化した音便形が接続する動詞がみられる。「 Chol」は多段型動詞に準じた活用をする。

- ・ハナコワ モー オキッチョイヨ。(花子はもう起きていますよ。)
- ・イチジカンマエカー アケチョー。(1時間前から開けている。)
- ・キノーカー キチョー。(昨日から来ている。)

〈希望形〉

意志形に「ゴテ+多段型動詞アル」を後接する。「ゴテアル」は「ゴチャル」という語形変化をする。希望形の活用を、「書く」で代表させて以下に示す。

断定非過去・連体非過去形 カコゴチャル

断定過去・連体過去形 カコゴチャッタ

否定形 カコゴツナカ

- ・ハヨ ヨー ナロゴチャー。(早くよくなりたいたい。)
- ・マーダ ハタラコゴチャッタ。(まだ働きたかった。)
- ・ドケーモ イコゴツナカ。(どこにも行きたくない。)
- ・トーチャンタチン トキヤ イコゴツナカ  
ヒトワ イカン イコゴチャ ヒトワ イ  
ータツチャロダイ。(お父さんたちの頃は行きたくない人は行かない、行きたい人は行ったんだらうよ。)
- ・ケッコン スゴチャー。(結婚したい。)
- ・ヨッパラワンゴテ スーゴチャー。(酔っぱらわないようにしたい。)

〈のだ形〉

連体非過去形に「ト」を後接する。この「ト」は、連体過去形や否定形などの活用形にも後接する。この「ト」は「ツ」になることが多い。

- ・ハナコガ クートタイ。(花子が来るんだよ。)
- ・コーソクセンニ マニアワントチ。(高速船に間に合わないんだって。)
- ・ワカランツタイナー。(わからないんだよね。)

2. 形容詞・形容名詞述語・名詞述語の活用の特徴

【形容詞】

形容詞の活用の型は、ひとつである。中止形、否定形、なる形において、語幹末母音によって、交替

語幹もしくは語幹が用いられる。なる形で以下に示す。

語幹末母音	交替後	語例
a	o	ハヤカ (早い) ハヨナル
i	ju	カナヒカ (悲しい) カナシュナル
u	u	ヌクカ (暖かい) ヌクナル
o	o	トーカ (遠い) トーナル

宇久町方言では、語幹末母音が e の形容詞はみられない。

この交替語幹(語幹末が u、o の場合は語幹)に、「ニ」が接続した形式が、否定形やなる形で使われることもある。

- ・キョーワ {サムナカ / サムニナカ} ネー。(今日は寒くないね。)
- ・カーニ ササレタ アトシ {カユナツタ / カユニナツタ}。(蚊に刺されたあとが痒くなった。)

〈断定非過去形〉

語幹に「カ」を後接する。アカ(赤い)、ナガ(長い)などの語幹末母音が a の形容詞、もしくはヌク(暑い)、サム(寒い)などの語幹末母音が u の形容詞は、語幹末音節が特殊モーラになることが多い。語幹末音節の子音が無声音であれば促音、有声音であれば撥音になる。

- ・コン トマトワ アッカ。(このトマトは赤い。)
- ・セーガ ヒッカ。(背が低い。)

〈断定過去形〉

語幹に動詞的な接辞「カッタ」を後接する。

- ・キノントノ アッカッタヨ。(昨日のが赤かったよ。)
- ・アノ ヒトガ キテクレチョツタケン ヨカッタ。(あの人が来てくれていたから良かった。)

〈推量形〉

動詞に動詞的な接辞「カロー」を後接する。末尾は短音化すること多い。

- ・ナカモ アッカロネー。(中も赤いだらうね。)
- ・アシタワ トテモ ヌッカロー。(明日はとても暑いだらう。)
- ・ナンノ ワカカロカヨ。(どうして若いだらうか。)



## 〈連体非過去形〉

連体非過去形は断定非過去形と同形で、語幹に「カ」を後接する。

- ・ナンカ アイダ オラルー。(長い間いられる。)
- ・アッターカ コッパ スンナヨ。(もったいないことをするなよ。)

## 〈連体過去形〉

連体過去形は断定過去形と同形で、語幹に「カタ」を後接する。

- ・アッカッタ ミーノ クロナッチョイヨ。(赤かった実が黒くなっているよ。)
- ・スッカッタ モンガ チントナッタ。(暖かかったものが冷たくなった。)

## 〈中止形〉

交替語幹(語幹末母音が u、o の場合は語幹)に「シテ」を後接する。

- ・オットシテ モタエン。(重くて持てない。)
- ・サムシテ サムシテ タマランヨ。(寒くて寒くてたまらないよ。)

## 〈假定形〉

語幹に「カレバ」を後接する。

- ・アカカレバ トロダイ。(赤ければ採ろう。)
- ・ウンドーカイノ トキジャ ナカレバ アワエンカナ。(運動会の時じゃなければ会えないかな。)

## 〈否定形〉

交替語幹(語幹末が u、o の場合は語幹)に形容詞「ナカ」を後接する。

- ・キョーワ サムナカネー。(今日は寒くないね。)
  - ・タコナカ ホン(値段が高くない本)
- 「サム」、「タコ」などの部分は、「ワ」や「モ」などの助詞でとりたてることができる。
- ・スクワナカ。(暑くはない。)
  - ・イトモ カユモナカ。(痛くも痒くもない。)

## 〈なる形〉

交替語幹(語幹末が u、o の場合は語幹)に「ナル」を後接する。「ナル」は、多段型動詞の活用をする。

- ・モースグ ミノ アコナー。(もうすぐ実が赤くなる。)
- ・ワッカ トンノ コッガ ナツカシュナッタ。(若い時のことが懐かしくなった。)
- ・ハヨニ フトナレ。(早く大きくなれ。)

## 〈丁寧形〉

伝統的な宇久町方言では、丁寧形はみられない。対外的な場面で、丁寧さを表すときは共通語の「デス」が用いられる。連体非過去形に「デス」を後接する。

- ・スッカデスネー。(暑いですね。)

## 〈のだ形〉

連体非過去形に「ト」を後接する。この「ト」は、連体過去形や否定形などの活用形にも後接する。この「ト」は「ツ」になることが多い。

- ・ソコネーサント オナドヒジャケン イッコ オーカト。(そこの姉さんと同い年だから、一歳多いんだ。)
- ・ドコン イタカッタツカヨ。(どこが痛かったのか。)

## 【形容名詞述語・名詞述語】

形容名詞述語には、「シズカカタ」など形容詞型の活用形と、「シズカジャッタ」など名詞述語型の活用形が併存している。

## 〈断定非過去形〉

形容名詞は、形容詞型の「カ」を後接する。名詞は、名詞のみである。名詞述語に終助詞「タイ」や「ネ」が直接後接する。

- ・コン ヘヤワ シズカカ。(この部屋は静かだ。)
- ・タローワ ガクセー。(太郎は学生だ。)
- ・ワタシン イタ コロチュートガ ハチガツノ スエタイネ。(私がいた頃というのが八月の末だよね。)
- ・ウンドーカイチューケド レクリエーションタイ。(運動会というけれども、レクリエーションだよ。)

## 〈断定過去形〉

形容名詞には、形容詞型の「カタ」を後接する形式と名詞述語型の「ジャッタ」を後接する形式がある。名詞は「ジャッタ」を後接する。

- ・アンヘヤワ {シズカカタ / シズカジャッタ}。(あの部屋は静かだった。)
- ・キョネンマデ タローワ ガクセージャッタ。(去年まで太郎は学生だった。)

## 〈推量形〉

形容名詞には、形容詞型の「カロー」を後接する

形式と名詞述語型の「ジャロー」を後接する形式がある。名詞は「ジャロー」を後接する。末尾は短音化することが多い。

- ・ムコーワ マーダ {シズカカロ/シズカジヤロ} ネー。(向こうはまだ静かだろうね。)
- ・オバサンモ モドッタッチャ ヒトリジャロ。(おばさんも帰ったって一人だろう。)

#### 〈連体非過去形〉

形容名詞には、形容詞型の「カ」を後接する形式と「ナ」を後接する形式がある。名詞は助詞「ノ」を用いる。

- ・{シズカカ/シズカナ} ヘヤ (静かな部屋)
- ・{ゲンキカ/ゲンキナ} 人 (元気な人)
- ・ガクソーノ トモダチ ((今も) 学生 (学校生) の友達)

#### 〈連体過去形〉

連体非過去形と断定過去形は同形である。形容名詞は「カッタ」、「ジャッタ」を後接する。名詞は「ジャッタ」を後接する。

- ・サッキマデ {シズカカッタ/シズカジャッタ} ヘヤガ ソーゾーラヒカ。(さっきまで静かだった部屋が騒々しい。)
- ・ガクセージャッタ トモダチ ((去年まで) 学生だった友達)

#### 〈中止形〉

形容名詞、名詞ともに「デ」を後接する。

- ・タローワ ゲンキデ ハナコワ オトナヒカ。(太郎は元気で花子は大人しい。)
- ・ヒトラ ガクセーデ ヒトラ カイシャイン。(一人は学生で、一人は会社員だ。)

#### 〈仮定形〉

形容名詞は、形容詞型の「カレバ」を後接する。名詞は「ナラ」を後接する。

- ・シズカカレバ ネムラルー。(静かであれば眠ることができる。)
- ・ガクセーナラ タノマレン。(学生なら頼むことができない。)
- ・ジブンヒトリナラ カワマンツタイ。(自分一人ならかまわないんだよ。)

#### 〈否定形〉

形容名詞、名詞ともに「ジャ」が後接し、さらに形容詞「ナカ」が後接する。

- ・キノホデ ゲンキジャナカ。(昨日ほど元気じゃない。)
- ・ガクセージャナカ。(学生じゃない。)

#### 〈なる形〉

形容名詞、名詞とも「ニ」が後接し、さらに「ナル」を後接する。「ナル」は多段型動詞の活用をする。

- ・モースグ シズカニナー。(もうすぐ静かになる。)
- ・カゼガ ヨー ナッテ ゲンキニナッタ。(風邪が治って元気になった。)
- ・ガクセーニナル。(学生になる。)

#### 〈丁寧形〉

伝統的な宇久町方言では、丁寧形はみられない。対外的な場面で、丁寧さを表すときは共通語の「デス」が用いられる。形容名詞、名詞ともに「デス」を後接する。

- ・シズカデス。(静かです。)
- ・ガクセーデス。(学生です。)

#### 〈のだ形〉

形容名詞は、「ト」を後接する。前述のように「ト」は「ッ」になることもある。

- ・ゲンキカッカヨ。(元気なんだよね。)

名詞は「ト」を後接せず、「のだ」形はみられない。

#### 参考文献

- 愛宕八郎康隆 (1983) 「長崎県の方言」 飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一 (編) 『講座方言学 9 九州地方の方言』 国書刊行会
- 有元光彦 (2007) 『九州西部方言動詞テ形における形態音韻現象の研究』 ひつじ書房
- 九州方言学会編 (1991) 『九州方言の基礎的研究 改訂版』 風間書房 (初版は 1969 年)
- 月川雄次郎 (1997) 『宇久方言で「魏志倭人伝」を読む』 (私家版)
- 原田章之進 (1983a) 「語彙の面より見た長崎県の方言区画」 『活水論文集 日本文学科編』 26
- 原田章之進 (1983b) 「宇久・小値賀両島方言の所属」 『活水日文』 9
- 古瀬順一 (1983) 「五島の方言」 飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一 (編) 『講座方言学 9 九州地方の方言』 国書刊行会

(門屋飛央)